

2-4 バイオマス調査

4. バイオマス銭湯調査

●目的・内容

京都市内には多くの銭湯があり、昔から市民に親しまれてきました。その銭湯の燃料はかつて100%が東山などで採れる薪で賄われていました。現在でも、数は少ないものの薪を利用している銭湯が残っています。それらを探し、現在の薪の需要や、燃料の移り変わり、薪で焚くことによる効果などに関する聞き取り調査を行い、実際に入浴してみました。



ボイラーに薪をくべる様子。大きな薪は長く燃える。

●結果・考察

- はじめに、京都府下の銭湯は全て加盟している公衆衛生組合で、聞き取り調査を行いました。京都府内では薪のみを利用している銭湯が22軒あることが分かりました。昭和30年以前は燃料は薪のみでしたが、それ以降徐々にA重油に変わってきたそうです。このところ銭湯の利用者は減少しており、1年に10件のペースで廃業しています。燃料に薪を使うことに対しては、輸送や切断などの手間や、置き場所を必要とすることから消極的でした。

現時点で銭湯でのバイオマス利用は難しいと思いましたが、炭素税の導入や助成金による補助を行い、業者の努力でチップやペレットが常に安定して供給できれば、可能性は十分にありました。



ボイラーで燃える薪。ボイラーの近くはとても暑い。

- 次に薪を利用している銭湯に電話調査を行いました。調査を行ったのは、市内の9件の銭湯です。聞き取り結果を以下の表に示します。

* 全体を通して●はポジティブな反応の銭湯 ▲はどちらかといえばネガティブな反応の銭湯 () は軒数

薪を利用する理由	<ul style="list-style-type: none"> ●昔からずっとこの形式でやってきた。運動がてら。 ●焚き物を焚くというのは気持ちがいい。健康の証と思っている。 ▲薪のほう安くてすむから。 ▲倉庫に入っているのを処分しなければいけないから。
薪の利用量	<ul style="list-style-type: none"> ・1tトラック山盛り1杯で3日分 ・1日軽トラに8割がた ・1日軽トラに半分くらい(2) ・1日軽トラ1杯分くらい(2)
利用する割合	<ul style="list-style-type: none"> ・100%(5) ・薪9対重油1 ・薪がないときだけ重油を使う ・夏は薪9：重油1、冬は半分半分
薪の調達方法	<ul style="list-style-type: none"> ・工務店(2) ・木の箱屋と、製材所のおがくず ・解体業者が5軒ほど入っている。市内と滋賀が一軒。 ・大工さん ・建設業者